

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104217
法人名	(有)オリエンタルシルバーホーム
事業所名	トータルケアサポート 花みずき
所在地	愛媛県松山市泉町 2 3 番地 6
自己評価作成日	平成22年2月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年3月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

生活の場でありたいと思いますので自立支援を基本としています  
 自立支援とは何をしたいかも自分で選択できる事だと思います  
 私たちは可能な限り、又他の利用者様に迷惑がかからない限り、生活や医療の方向性も自己選択していただき、その為に不自由な部分を支援させていただきます。  
 音楽・習字・地域学生のボランティア等を誘致し又、外出・外食などの普段家族でされているサービスを取り入れ個々の心身の状態に合った、楽しみのある生活をしていただきたいと思います。  
 自由であることは家庭と同じ危険も伴い、その点は本人・家族様の理解を得られるようにしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

散歩時にご近所の方と挨拶を交わされたり、気まますに利用者の情報を知らせてくれたようなこともある。事業所の屋上で夏祭りを開催された際には、バザー券を持って近隣の方達を訪ね案内された。地方祭には利用者全員が玄関前に出て神輿を見られた。小・中学生の体験学習では、一緒にゲームや食事をされて「孫が来たみたいでうれしい」と利用者は喜ばれたようである。お花見の際には、町内会長を通じて公民館の机や椅子を貸していただき、年末には杵と臼をお借りして餅つきをされる。  
 2か月に1度、利用者個々に「介護・看護報告書」を担当者や看護師資格を有する職員が作成し、ご家族に送付されている。年に2回、家族会を開催されており、前回の家族会の際に「車イスの空気が抜けている」「衣類の紛失が多い」とのご指摘があり、車イスの整備担当者を決められたり、衣類の名前記入の再確認と「洗濯物の仕分けは十分注意する」ようにされた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 トータルケアサポート 花みずき

(ユニット名) グループホーム 花みずき(2階)

記入者(管理者)

氏名 志摩しずか

評価完了日

平成22年3月5日

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各ユニットに理念を掲示し支援の方向性を間違わないよう、ユニット会議等で確認しあっている。又理念がケアプランに活かされるように話合っている。	
			(外部評価) 事業所開設時に「個別ケア」「暖かい環境作り」「自立支援」「充実した生活」を理念に掲げ、ユニット入り口の廊下や職員室に掲示されて、日々実践に努められている。又、今年度の目標を「礼儀・礼節」と決めて、言葉使い等にも気を付けるよう話し合われている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域との交流は推進会議や地方祭への参加や、ホームの夏祭りへの招待等でふれあいが出来るようにしている。 地域の小中学校の体験学習の受け入れをしており、今年度4月より近隣の保育園との交流も予定されている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、回覧板が回ってきており、地域の情報を知り得ておられる。散歩時にご近所の方と挨拶を交わされたり、気ままに出られた利用者の情報を知らせてくれたようなこともある。事業所の屋上で夏祭りを開催された際には、バザー券を持って近隣の方達を訪ね案内された。地方祭には利用者全員が玄関前に出て神輿を見られた。小・中学生の体験学習では、一緒にゲームや食事をされて「孫が来たみたいでうれしい」と利用者は喜ばれたようである。お花見の際には、町内会長を通じて公民館の机や椅子を貸していただき、年末には杵と臼をお借りして餅つきをされる。4月には、幼稚園児の訪問も予定されていた。	利用者個々が地域とつながりながら暮らし続けられるような支援に向けて、地域や学校との交流をきっかけにして、さらに、利用者が出かけて地域の方達と交流するような取り組みもすすめていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々、通りがかった方々、電話での相談等で在宅・施設を問わず相談窓口となり必要な情報提供や、各事業所への紹介や連携、アドバイスを行っている。	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価)  地域や行政の方々と家族様・職員が一つの場を持 てることにより、意見の交換が出来職員へ伝え、改善点 を見出して実践している。	
			(外部評価)  会議を2カ月に1回開催し、特に新たに入居された利 用者のご家族には参加いただけるよう案内されてい る。会議では「感染症対策」や「家族会の内容」「外 部評価結果」「終末期について」「行事報告」等を行 い、ご意見をうかがっておられる。夏祭り重ねて会 議を行い、取り組み状況を見ていただいたこともある。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価)  疑問・問題点は随時報告を行い、家族様からの苦情 などについても市町村の意見も聞く様になっている。 推進会議等を通し日ごろのケアや取組みについて も報告・説明を行い情報提供や疑問点の解決をしてい る。	
			(外部評価)  事業所の事故報告書提出の際には、市の担当者を訪問 をして対応について相談し、助言をいただくこともあ る。運営推進会議で市の担当者から、今後の課題とし て「個別ケアの取組みをすすめていくこと」をアド バイスいただいております。事業所では今後、傾聴ボラ ンティア等の受け入れ等もすすめていきたいと話してお られた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)  身体拘束に関しては全ての職員が理解出来ており、 危険性を回避出来ない場合を除いて出来る限りの身体 拘束排除を実践している。 玄関の施錠は時間外を除いて、していないが各階エ レベーターボタンの施錠は時間帯や入居者の状況に応 じ使用する場合はある。	
			(外部評価)  入居時、ベッドからの転落の恐れのある方にベッド柵 を4本使用していたが、その後、ご本人の様子をみな ながらご家族とも話し合い、柵を外し、職員の見守り で対応されている。毎月のミーティング時に職員は、身 体拘束について勉強されている。	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) リーダーミーティングや全体ミーティングを定期的に行い、職員の不安や悩みを出し合い、まず職員の精神的なケアに取り組むことで、より良い介護や支援を目指している。 虐待の種類や内容についてはミーティングでの指導やマニュアルをファイルしてある。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 市町村の介護保険課・生活福祉課・社会福祉協議会・包括支援センター等の情報や指導を受け個々に対応している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に管理者より説明を行い、必要な場合は持ち帰り再度熟読していただき、質問や意見をお聞きし納得された上で契約書を交わす事になっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議・家族会で意見を出せる場がある 個々の利用者に担当職員を決め意見や質問などが受けられ易くしている。必要な報告はリーダー・管理者に随時行う様にしている。 (外部評価) 年3回発行している「花みずき通信」は、写真を多く用いて行事や外出、誕生日会等の様子をお知らせしている。2か月に1度、利用者個々に「介護・看護報告書」を担当者や看護師資格を有する職員が作成して、ご家族に送付されている。年2回、家族会を開催されており、前回の家族会の際に「車イスの空気が抜けている」「衣類の紛失が多い」とのご意見もあり、車イスの整備担当を決められたり、衣類の名前記入の再確認と「洗濯物の仕分けは十分注意する」ようにされた。	さらに、言い出し難いご家族の心情を踏まえ、ご家族の意見を引き出す工夫、たとえば評価機関から発するアンケート結果を活用されたり、外部評価結果を話し合うきっかけにされたり、家族会開催時にご家族だけで話し合う時間を設ける等、ご家族からさらにご意見を引き出して、貴事業所のさらなる質の向上につなげていかれてほしい。

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全体会議やフロアーミーティングを定期的に行い意見を聞けるようにしている。	
			(外部評価) 毎月のミーティングで、利用者個々のケアについて意見を出し合い、話し合われている。職員の提案でアセスメント様式を新たにされ、利用者個々の現在の状態を詳細に書き込める様式にされていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一年に1回は勤務評定も行き、努力実績の評価を行い適当と思われる者は給与の見直しもやっている。年に2~3回の親睦会で管理職を含め職員間のコミュニケーションを図っている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 現在は管理者やキャリアのある職員がミーティングの中での勉強会による指導を行っているが、今年度は外部研修や講師を招いての研修会を予定している。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 認知症の実践者研修などを通じ、他施設の職員との交流も図れるようにした。管理者他施設などを訪問し情報交換を行いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査の段階で希望や不安要素を把握し改善出来るようなプランを作成し、経過観察をしながら見直しを行っていく。 担当を決め、職員サイドから話かけを行い、不安や孤立感をなくする様にしている。 レクレーションや行事への参加も本人様の意思を尊重する	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居に至る経過を十分にお聞きし必要性を理解する 契約以前の段階で費用や生活の内容ケアの内容等の説明を行い、納得されるまで話し合いを行う 医療との連携の状態を説明し家族様自身に主治医や方向性を決めていただく	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査の段階で希望や不安要素を把握出来るようにしている 事前調査には管理者が介護支援専門員・看護師・介護リーダーを状態に合わせて参加させ、多様なサービスが説明できるようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員全体であっても、担当者であっても花みずきの生活は介護の場ではなく、生活の場であるという理念の指導を行っており、生活するために出来ない部分をお手伝いする、楽しむ時は一緒に楽しむ姿勢である様に心がけている。 利用者様と職員は人権も同じライン上に居り、一方通行の支援にならないように心がけている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活や将来について必ず家族参加で話合えるようにしており、ホームのアドバイスや情報を提供し、家族様に最終判断をしていただくようにしている。 日常の状態の報告を看護師・担当者が中心に定期的に行っている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 訪問面会は、本人・家族の拒否が無い限り自由に来るようにしている。(他の入居者に迷惑行為があると思われる方はご遠慮願っている) (外部評価) 近所から入居されている利用者と散歩する途中に、ご自宅に立ち寄られることもある。事業所の行事やイベントの際には、ご家族にもご案内をして一緒に楽しんでいただけるようにされている。散歩時、馴染みの道を通り、知り合いの方に出会うこともある。	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自由な空間を理念としているので、無理強いしないで自然な形でお茶やレクリエーションに参加して頂き、職員が介在することにより利用者同士の交流が出来るようにしている。 時間をかけてお友達同士で行き来できるようになっています。 合同で楽しめる行事設定を定期的に作成している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、地域の相談窓口として入居中と変わらずご相談に乗れるようにお話をしています	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別サービスが実施できるように担当を決めている 24時間シートを作成し個々の生活や希望などを把握できるようにし、ケアプラン作成や日常生活の支援に活かしている。 (外部評価) 職員は、利用者との日々の関わりや会話の中から思いや意向の把握に努めておられる。知り得た情報は、事業所独自のアセスメント様式「24時間シート」の「意向・好み」の欄に記入し、職員で共有されている。	今後、新たにされたアセスメント様式のさらなる活用から、利用者一人ひとりの思いや意向を探り、介護計画につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や知人の訪問時にお聞きする事がある 利用者様との係わりや会話の中で把握できるようにし、サービスの見直し等に取り入れ、今何がしたいかがあれば可能な限り実現できるようにする	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 医療とも連携し、看護師・職員が毎日の健康チェックを行い、異常があるときは全員に申し送り緊急連絡がスムーズに行えるようにしている。	



## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族には日常的に意見を聞き・本人の満足度なども24時間シートや毎月のモニタリング表で評価しケアプランに反映している。 日常のミニカンファレンスや状態の報告等を聞き必要なときはプランの見直しを行っている。	
			(外部評価) 介護計画は、毎月モニタリングして6か月に一回、見直しをするようになっていく。管理者は、介護計画は「あったかいプラン」「メンタル重視」を心がけておられる。新規利用者の介護計画は、ご家族の「穏やかに過ごして欲しい」というご希望とご本人の不安な心情にも配慮して「利用者同士の関係作り、お友達作り」を目標の一つに揚げておられた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 24時間の個別記録・業務日誌による個別記録と毎日のケアプラン実施度を自己評価し実践に活かしている	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一日の流れの業務マニュアルはあるが、体調・天候・季節等を随時勘案し・優先すべき事柄を臨機応変に行い、行事の導入や、食事や外食の対応をしている 入浴や日常生活の中で個々に必要な福祉用具等も家族と話し合いながら安楽な生活が出来る様に心がけている	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 習字・音楽・地域学童などボランティアの誘致をしている 外出時の同行など家族にも協力を得て社会参加を促している	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には本人・家族の希望する医療機関を主治医 としている 受診時に家族対応が困難な場合は往診を中心とした 連携病院の紹介を行い、その中で決めてもらっている	
			(外部評価) 事業所では、入居時に、安心できる健康管理・重度化 した場合のことも考えて、24時間対応が可能な協力医 での受診をご本人やご家族にすすめておられ、同意の もとかかっておられる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 非常勤の看護師1名を配置して、訪問看護ステー ションとの契約で対応し、日常生活の健康管理を行い 家族と向き合い相談を受けながら、医療機関への連携 を行っている	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 日常より医療機関と連携をとり入院中の状況や退院 後の対処など情報交換が出来るようにし、早期退院が 出来るように努めている	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の方針をお聞きしているが、状態変 化がある度に医療・家族・花みずきで話し合いを持ち 方向性の確認を取っている 重度化した時、終末期を医療機関でなくホームでと 希望された場合は24時間体制の医療機関に協力を得 て看取りを行うようにしている	
			(外部評価) 現在は「入院は嫌ですずっとここにいたい」と希望する 利用者や、事業所で最期までお願いしたいと希望され るご家族も数名ある。市の担当者と相談しながら身寄 りのない利用者の看取りを支援された事例もある。	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急連絡体制は整えてあり、看護師や医療機関へ連携できるようにしている 応急処置などについては医療機関にも協力を得てマニュアル化しているが、医療従事者ではない者は許容の範囲で実施する事にしている	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域には協力を要請している 非難の場所は各階に掲示している 防災訓練は定期的に行い、消防関係者の協力も得ている  (外部評価) 消防署の協力を得て、避難訓練を行っておられ、又、事業所独自で毎月1回通報訓練等をされている。	事業所はビルの2・3階に位置し、職員は災害時の避難誘導等について不安も感じるようである。利用者と職員の安全・安心のためにも、いろいろな場面を想定した訓練を繰り返し、重ねていかれてほしい。又、近隣の方達と協力し合って災害時の訓練を行われたり、地域の防災組織との連携等、取り組みをすすめていかれてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  (外部評価) 管理者は、今年度の目標の「礼儀・礼節」について言葉使いを職員に日常的に話しておられ、利用者「～ちゃん」ではなく「～さん」等、呼び方等についても指導されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事や排泄、入浴、行事参加など利用者に問いかけながら実施している	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 週に一度は日常のマニュアルを外し職員が自由に動く日を設定している 突発的な状況にも対応し、決まりごとに縛られない支援を心がけている	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 離床するときは更衣・身だしなみの気配りや整容を行ってもらう 外出時は可能な人は、利用者様に服装など選んでもらいおしゃれを楽しんでもらうようにしている 自分で選んだ更衣が出来ている人には、「お似合いですよ」等の言葉かけを行い楽しむ意欲を持ってもらう	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 花みずきは厨房で原型が出来ているため、盛り付けや配膳・片付け等手伝っていただく 月に1~2度の調理の日やおやつ作りの日は、献立の希望なども取り入れ、利用者参加で調理を楽しむ (外部評価) 食事は併設の有料老人ホームの厨房で、業者が調理したものが届くようになってきている。職員は、利用者の中に入り、利用者の口元を拭いたり、食べやすいように食器を寄せたり、サポートしながら、同じものを食べておられた。昼食時に、利用者が「おいしいね」「白いご飯の方がいい」等、食事の感想を言っておられる様子も見られた。今後、お花見弁当を事業所で作り、ご家族と一緒に出かけることになっていた。	利用者主体の生活を支援することができるグループホームの特徴を踏まえ「食事を楽しむことのできる支援」という点から、事業所の食事支援のあり方について、工夫できることはないか話し合われてみてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の形態は個々に合わせている 食事・水分の摂取量は毎日チェックを行い本人に合わせた状態観察を行っている	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは自立・介助ともに全員行う事が出来ている	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			個々に合わせて支援を行っている	
			(外部評価)	
			日中は、利用者個々の排泄パターンに沿ってトイレで排泄できるよう支援されている。夜間は、ポータブルトイレを使用される利用者もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			排泄のチェックは毎日行い、早期に改善が出来るように食生活等で予防している	
			(外部評価)	
			体調不良の時以外は随時入浴をしてもらっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は現状では困難であり出来ていない	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴は週に2回となっているが、希望で2日に1回入浴される方もいる。介護度が重度の方は、併設の有料老人ホームの特殊浴槽を利用して入浴されている。最近、利用者4名の方が、6階にある併設有料老人ホームの大浴室を利用して窓から松山城を望み、温泉気分を楽しまれた。夜も希望があれば入浴できるようになっている。	
			(外部評価)	
			個々の時間は自由に使ってもらえるようにしており、休息も希望により自室やリビングで行ってもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			個々の時間は自由に使ってもらえるようにしており、休息も希望により自室やリビングで行ってもらっている。	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は看護師が行い、全職員に指導しているが専門職でない職員が中途半端な判断をする事を禁じており、必ず主治医いや看護師への報告を行うようにしている。 担当者は自分の受け持つ利用者の既往症や薬の種類は把握するように指導している	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別サービスの実施を推進している 24時間シートを作成し個々の生活や希望などを把握できるようにし日々の楽しみに活かせるように取り組んでいる	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) インフルエンザの流行があり例年よりは実施回数は少ない 平成22年になって予防接種も終了し初詣などから、買い物など出かけられる日々が出来てきている (外部評価) 散歩されたり、お菓子等の買い物を希望される方と近所の商店に出かけておられる。お花見、イチゴ狩り、初詣等、外食も含め月に一度は出かけるようにされている。近々「回転ずし」での外食を予定されていた。	管理者は「利用者は、自宅の近所をドライブするだけでも喜ばれる事が分かった」と話しておられた。さらに、利用者一人ひとりの外出の希望を探り、ご家族にも相談しながら個々の行きたい場所等、希望に沿って出かけてみるような取り組みもすすめていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 平成21年11月は文化祭の日にホーム内バザーを実施し個々におこずかいを所持し、買い物を楽しめた	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の協力を得て可能な利用者は電話を取り次いだり、かけたり出来ている 職員の支援も含め、年賀状を全員に書いてもらって出すことが出来た	

## 自己評価及び外部評価表 (2階)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 春夏秋冬の切り替えや行事などに合わせ壁飾りなどに工夫をし季節感を取り入れている 共通空間は清潔感が保持できるようにしている	
			(外部評価) 6階に見晴らしの良い屋上があり、温暖な季節には運動会や食事会、おやつ時間等に利用されている。食堂の壁面一面には、職員と利用者で作った白とピンクの紙花で大きな桜の木を作成されていた。「花見の日が雨天だった時に備え」又、お花見に向けて雰囲気作りをされているようである。食堂から続く南に面した廊下は日当たりがよく、昼食を終えた車いすの利用者が日向ぼっこをされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 季節により屋上で過ごす事が出来る リビングでお茶やおやつ・カラオケなどを楽しむ事が出来る	
			(外部評価) 家族の協力を得て身の回りに置く物を配慮している 個々に合わせて動線の空間を工夫し、動き易いようにしている	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の協力を得て身の回りに置く物を配慮している 個々に合わせて動線の空間を工夫し、動き易いようにしている	
			(外部評価) 使い慣れたタンスや藤の座椅子を持ち込まれたり、テレビを置き、昼食後は、ベッドに腰掛けテレビを見ておられる方もあった。ご主人の仏壇を持ち込まれている利用者の方は「安全のためにロウソクとお線香は電池になっているのよ」と説明して下さった。ご家族の写真や職員から誕生日祝いにもらった色紙が飾られていたり、姿見の鏡が置かれている居室もあった。又、窓に日よけのすだれが吊ってある居室もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子で自走出来る人や自力歩行が出来る人が移動し易い様に随所に手すりを設置している。 居室には畳とフローリングがありベッド使用・和室使用のどちらも可能となっている	
			(外部評価) 車椅子で自走出来る人や自力歩行が出来る人が移動し易い様に随所に手すりを設置している。 居室には畳とフローリングがありベッド使用・和室使用のどちらも可能となっている	